

いえしまDays

7月26日(火) ~ 7月29日(金)

IN 兵庫県立いえしま自然体験センター

	午前	午後	夜
1日目	施設に向け出発	オリエンテーション <島での過ごし方>	振り返り
2日目	オリエンテーション <魚の獲り方について>	自給自足生活	振り返り
3日目	自給自足生活	自給自足生活 いかだレース	振り返り
4日目	清掃	施設を出発・解散	

一日目： 絶好のキャンプ日和！！朝早いにも関わらず、メンバー皆さんから元気に挨拶をいただき、各集合場所から出発しました。電車、バスを乗り継いで、姫路港へと到着しました。乗船するとテンションも上がり、海風を体いっぱいに感じました。島に到着し、自身の荷物を運び歩き、反対側に移動すると、ついに今回の舞台である施設が見えてきました。疲れた体を休めつつ昼食を済ませ、早速海へ向かいました。火照った体に海の冷たさは格別で、誰もが幸せいっぱいになっていました。海遊び後は磯辺に行き、貝を集めました。このキャンプではほとんどの食事を野外炊飯で行います。かまどで火の起こす方法を教わり、今晚は“カレー”を作りました。初めて作ったカレーは美味しく、これから作る料理はその上を目指していきます。明日から、自分達で考えた【島暮らし】が始まります。楽しみを胸に眠りにつきました。

二日目： 朝はセミの鳴き声で目覚めました。二日目なので、まだまだ元気は有り余っているようです。朝食はキャンプの定番飯“パックサンド”です。経験者も多く、教え合いながら楽しく、美味しくいただきました。今日から本格的な【島暮らし】のスタートです。釣りのやり方を教わると、早速堤防へ向かいました。初めて釣りをされる方もおられ、釣糸を垂らすだけでもとても興奮されていました。魚を捕まえる別の方法として、“ヤス”を使って魚を刺す事も学びました。メンバーにとって魚や貝を獲る事は島暮らしの幅が広がり、一日の立案をする際に何をしようか、楽しそうに考えておられました。ただ、楽しいことを優先的にされていたので、夕飯の時間がかなり押してしまい、夜の流れが遅れてしまいました。眠たい目をこすりながら一日の振り返りをし、今日のグループの動きや様子、発言を確認しました。より良い島暮らしをするために振り返り内容をしっかり行動に移していきます。



三日目： 昨夜は遅くまで振り返りをしていたので、今朝はゆっくりとした起床でした。これも島暮らしの良さです。朝食をゆっくり済ませると、昨日考えた一日を過ごします。驚いたのが、半分以上のグループが朝食後にすぐに昼食を作り始めました。理由は、「昨日作るのが遅かったから。」でした。他には釣りに行くグループもありました。昼食後は皆が楽しみにされていました[いかだレース]です。施設の職員さんから紐の括り付け方を教わり、作成に取り掛かりました。括り方が分からない友達に自然と教えているメンバーの様子が伺えました。どちらのいかだも完成し、いざレーススタートです。勢いよくいかだを海に運び、一斉に漕ぎ出しました。とても気持ちよさそうで、アクティビティを楽しむことが出来ました。夕食はいかだレースで獲得した景品で美味しそうな料理を作っておられました。調理から片付けまでの流れがスムーズで、いつも以上に早く終わらせる事が出来ていました。夜は前日と同じく振り返りです。ただ内容は前日に比べて、より具体的で、翌日に大いに活かせるような予感がしました。



四日目： これまでの朝に比べて、四日目の朝は忙しいです。片付けをするために、起床後、シーツを畳んだり、布団を片付けたり、荷物をまとめたりしました。ある程度、片付けを済ませると、ようやく朝食を食べました。朝食後も片付けは続きます。借りた食器や器材を借りたときよりも美しくするために必死に洗い、磨きました。洗い物は面倒ですが、誰一人さぼることなく、役目を探しながら進めておられました。途中、皿やお椀が足りないハプニングもありましたが、どうすればいいかグループで話し合っていました。全員が一生懸命に片付けをされていたので、気が付けば昼食の時間となっていました。最初で最後の“食堂利用”で、食堂のご飯を噛みしめるように美味しくいただきました。そして、施設を出発する時が来ました。初日に越えてきた丘を再び越えなければいけません。帰りは疲れを見せたり、だれたりする事なく、しっかりと歩かれており、その姿はとても勇ましかったです。解散場所に近づくにつれ、緊張がほぐれてきたのか、疲労の様子が伺え始めました。四日間、本当にお疲れ様でした。



<キャンプ総括>

今年のいえしまも相変わらず、我々に沢山の事を教えてくれました。このキャンプのプログラムは全て“食”に繋がります。【食べるために生きる。生きるから食べられる。】この繰り返しを三泊四日体験していただきます。聞けばシンプルな内容ですが、とにかく奥が深いです。ゆえに沢山話し合います。こちらからプログラムを提供すると、あそこまで話し合うか疑問に感じるところはあります。どのメンバーも日が経つにつれ、表情に真剣さが増し、笑い声も少なくなってきます。それは決してつまらない、嫌だからではなく、真摯に向き合っているのも、【笑う余裕すらない】と私は考えます。そうした環境下で時々見せてくれるメンバーの笑顔は本物であり、私はもちろんのこと、周りも自然と笑みがこぼれ、温かい雰囲気になります。「これが幸せなんだな。」と感じました。来年もいえしまに行きます。まだまだ教わることはあるので、是非とも来年も一緒に行きましょう!!

(竹中 哲郎)